

(1) 本年度のN I E活動の概要

現在の生徒たちの様子を見てみると、今現在起きている出来事や情報について知らない、興味がない、知る環境にないという生徒が多い。例えば、新聞の一面に載るような大きなニュースがあった日にそのニュースについて知っている人はいるかと尋ねたとき、4分の1くらいの生徒しかそのニュースを知らないということがあった。日頃からニュース、新聞に親しんでいる生徒が少ないという実態であった。

N I E研究指定校1年目である本校では、まず新聞に親しむ機会をできるだけ増やしてきた。生徒たちだけでなく、職員室にもさまざまな新聞を置いて、先生方に新聞に親しんでもらおうと試みた。また、信濃毎日新聞データベースを利用できる環境を整え、新聞記事が身近にあるという環境づくりから始めた。

学校のあらゆる活動の中で新聞はどういう活用の仕方があるのかを皆で考え、できることから始めた1年であった。実践を通して、見えてきた成果、課題を共有し、さらに今後新聞がどのような学習場面で有効であるかを考えていきたい。

(2) 本年度のN I E活動の取り組み状況

本校は全校生徒329人、13学級である。何年も前から本校では地域の新聞店のご厚意により、全校の各クラスに毎日1部ずつ新聞が配付されている。新聞が毎日、教室に1部あるという環境である。ただ残念ながら、置いてある新聞を進んで読むという生徒たちの姿はあまり見られなかった。そこで、各担任は、朝や帰りの学活等で生徒たちにその日の新聞記事を紹介したり、生徒たちに関係する内容の新聞記事を使って問題提起したりしてきた。また、以前より図書室には新聞コーナーが設けられている。掲示板上にもその日の新聞が掲示され、机には新聞が置かれている。図書館周辺は新聞が読める環境が整えられている。

各教科学習としては、国語科が家庭学習での課題として新聞を活用したほか、総合学習で修学旅行について考えさせる場面で新聞を活用したり、各教科で新聞を活用した授業を実践したりしてきた。このような取り組みの結果、生徒も教師も新聞を身近に感じるようになってきている。

(3) N I E活動の狙い

本校の全校研究テーマは「自ら求めて、友とともに意欲的に学び合う生徒」であり、「協働的な学び」を推進している学校である。N I E活動を通して、「新聞の情報をもとに友と学びを深めていく生徒の育成」を目指したい。学び合いにおける課題・題材はさまざまなものがあるが、N I Eの活動では題材を新聞からの情報とする。学ぶ価値のある課題や高いレベルの課題は生徒たちの学ぶ意欲と関係してくる。したがって、既習事項と関連した生徒たちにとって魅力的で夢中になって学べる新聞記事が必須である。すると、一人一人の生徒たちが教材（新聞記事）と出会い、「対話」し、自分なりの意味世界を構築する（教

材との対話)。次に、その考えを足場に、他者と言葉や物を媒介した「対話」を通して、対人関係を築いたり修復したり、協働での探究を通して各自が確かな意味世界を再構築する(他者との対話)。新聞を使った授業を通してこのような学びを期待したい。

(4) 全校での取り組み

<図書館における取り組み>

図書館内には、新聞コーナーが設置されている。Asahi Weekly(英語の新聞)、朝日中高生新聞、北信ローカル(地域の情報が得られる新聞)の他、読売、朝日、毎日、信濃毎日新聞が自由に読めるスペースが設けられている。また図書館の入り口には、新聞閲覧台があり、その日の信濃毎日新聞が読めるようになっている。図書館外の掲示板には、「昨日の新聞1面を比べてみよう」というコーナーがあり、その日と前の日の新聞一面の記事が並べて掲示されている。信濃毎日新聞の「ヤンジャ」のページも掲示されている。このように生徒たちが自由に新聞を読める環境が整っている。その他、文学賞作家についての新聞記事と著書を関連付けたコーナーを設置するなど、新聞の情報と本の内容をつなげる情報を提供している。



今年度は、春の臨時休校の影響で、図書館ガイダンスが十分に実施できなかった影響もあり、新聞を図書館で読む生徒が少なかった。来年度は、図書館ガイダンスや図書委員会の取り組みによりさらに新聞を図書館で読む生徒が増えることを期待したい。

<家庭学習における「斜面」の活用>

国語科では、1日1ページの家庭学習(漢字提出ノート)の充実を図る取り組みとして週末に「書く」課題を出すようにした。基本は新聞コラムの視写で、これを通して読み書きの力を伸ばし、社会への関心を高めるきっかけの一つにしたいと考えている。週に1回2つずつの無料配信コラムを印刷・配付、これをもとに生徒はノート3ページ(金、土、日曜日分)を書いてくる。視写で3ページがほぼ埋まるが、視写の後にコラム中の語句を調べる、漢字を練習する、感想や意見を書くなど各自が工夫して取り組んでいる姿がみられた。

今後はコラムで読解の力を伸ばすことやコラムを自分の文章表現に活かすことも探っていきたい。話題や中心文をとらえ、要旨をまとめることで説明的文章の読解につながったり、気に入った言い回しを自分の文章に取り入れ、推敲することで書くことへの抵抗感が減ったりすることなども期待して、教科内で取り組み方の検討や改善をしていく。

<2学年総合的な学習：修学旅行に向けての活動>

2学年の修学旅行は3月に京都・奈良に行く予定だった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、3月に京都・奈良に行くことが難しい状況になった。そこで、生徒たちの思

京都・奈良・東京への修学旅行
長野市、目的地変更へ
各校で検討

新型コロナウイルスの影響で、各校の修学旅行は、9月の修学旅行に向け、長野市、中野市の各校長会が、8月の修学旅行について、京都・奈良方面や東京都内への旅行を取りやめる方針を審議し、10月10日、各校の校長会が、目的地を変更する方針を決定した。各校で検討している。

市立中野中学校の大半が8月下旬から9月上旬に京都・奈良へ2泊3日の旅行を予定していた。市立中野中学校の校長会が、目的地を変更する方針を決定した。各校で検討している。

市立中野小学校は、多くが9月下旬に東京方面で1泊2日の体験学習をする計画だった。変更後は来月10月まで、移動に費し切りバスを使い、県内や感染レベルの低い近隣などで行う方針。

市立中野小学校の校長は、昨年10月ごろまでに行い、日程の短縮は19日災害対策、多くの

2020年7月31日付 信濃毎日新聞

いや願いを聞く場面を設けた。その際、今後のことを考えるヒントとして、①「ワクチン接種費用無料に」というワクチン接種についての新聞記事、②「修学旅行、行き先は諏訪市内」諏訪市内の中学3年生が地元の観光地を修学旅行として見学したという記事、③「修学旅行、信州最高でした」県内の中学生が県内の修学旅行に行ったという記事、④「京都・奈良・東京への修学旅行 長野市、目的地変更へ」という長野市の中学生が修学旅行の目的地を変更した記事を生徒に紹介し、読ませた。経験したことの無い状況の中で判断をしなければならないときには、多くの情報が必要である。新聞による正しい情報、他の学校の様子などの情報が、旅行の方向性を見出すヒントとなった。

最終的には4月に長野県内の修学旅行ということになった。自分たちの力でつくりあげるといふ観点から、旅行3日目のクラス別コースについて班ごとに調べ学習を行い、コースを考え、クラス内でプレゼン大会を行った。その後、投票によりコースを決定した。(自分たちでつくりあげ修学旅行については、信濃毎日新聞3月5日付「ヤンジャ」のページで紹介されました。)

<技術科の授業での新聞記事の活用>

技術科では、エネルギーの変換と利用について学んでいる。教科書の図解資料を使って、様々な発電方式の仕組みと特徴、課題等をつかんでいく。

さらに、発電の方式の違いに興味をもたせると共に今後のエネルギー問題に目が向けられるよう、「身近に設置する発電所はどんな方式のものがよいのか説明しよう」という課題を設定した。身近な問題としてより深く考えるための資料として次の新聞記事を使った。

- ・菅首相の所信説明演説から脱炭素社会の実現を目指すとの宣言
- ・厳しい寒さが続いたために電力需要が高まり、供給が逼迫している
- ・東日本大震災後10年だが、現在も帰宅困難地区がある

新聞記事の読み取りに苦労する場面もあったが、取材を基に作られた情報であるということで、興味関心を高めることができた。環境問題、エネルギー問題、そして安全性等多くの視点で考え、グループ内で様々な意見が出された。

教科書の内容をより発展的に学ぶために、生徒を取り巻く様々な技術の進歩や発展、課題を最新の情報と組み合わせる資料として新聞記事を使ったことは有効であった。ただ、その選択や資料提示のあり方を十分に検討し、さらに広い視点から話し合えるように発問や資料提示のあり方をさらに検討することが必要であると考えている。

(5) 公開授業などの活動内容

社会科授業デザイン 中野市立中野平中学校 授業者 佐々木祥太

- 1 授業学級 1年3組
- 2 単元名 「世界の諸地域 アジア州」

3 単元の核心 アジアの国々の経済発展について、人口や資源、他地域との結び付きなどの面からとらえる。

4 本時のねらい

アジア州の経済発展と課題について学習してきた生徒たちが、アジア州の地域または国々の政府として、それぞれの国と地域が抱える問題の解決策について考える場面で、アジア州の国々が経済発展している理由を再確認したり、新聞記事を読み取ったり、仲間と情報を共有したり考えを聞いたりする活動を通して、問題を解決するための考えを書くことができる。

5 授業の構想

共有の課題

アジア州の国々が様々な理由で経済発展していることを再確認する。

ジャンプの課題

「新型コロナウイルスが流行する中、アジア州の国々では様々な問題が起こっている。自分が各国の政府の一員ならその問題を解決するためにどんな解決策を提案するか考える」

6 本時における教師の願い・教材の価値

世界の諸地域の学習において、州ごとに、

- ①世界各地で顕在化している地球的課題
- ②各州における地域的特色

の2つから主題を設定することになっている。アジア州における主題を「経済発展」に設定した。

「経済発展」は、SDGsの17の目標に挙げられている地球的課題の1つである。近年、アジア州は、インドや中国を始めとした国々が急速に経済発展している地域である。急速な経済発展に伴う都市問題や環境問題が発生している。

「経済発展」を主題として学ぶことを通して、経済発展に伴う地球的課題とアジア州における地域的特色を多面的多角的に捉えさせたい。

本年度、「世界の諸地域」の学習の中で、各州の地球的課題について考える場面では新聞記事を読み取る活動を取り入れてきた。新聞記事を読み取り、世界の諸地域で学習した地球的課題が現在どのような形で世界中に起こっているのか知ることを通して、自身の理解を深め、多面的・多角的に考えることのきっかけになることをねらいとしている。

生徒は、「世界の諸地域アジア州」の学習を通して、近年中国やインドを始めとしたアジア州の国々が、多くの人口に基づく安い労働力、豊富な資源、先進工業国の進出による海外資本の獲得などを背景に、急速に経済発展していること、その影響として人口の集中に伴う都市問題、環境問題などが発生していることを学んだ。また、世界の諸地域の各州の学習を通して、新聞記事を活用し、各州で起こっている地球的課題について読み取る活動を行い、新聞記事に触れる機会を増やしてきた。

本時は、世界の諸地域アジア州の単元のまとめの場面に当たるため、ジャンプの課題は、新聞記事の内容とアジア州の学習内容を使ってどんなことを考えることができるかに重点を置いた。現在世界中で新型コロナウイルスが流行し、アジア州でもその影響は大きく、様々な問題が起こっている。そこで「新型コロナウイルスが流行する中、アジア州では様々な問題が起こっている。あなたが各国の政府の一員なら、その問題を解決するためにどんな解決策を提案することができるか」というジャンプの課題を設定した。急速に経済発展してきたアジア州の国々が、新型コロナウイルスの影響によって直面している様々な問題に対するアドバイスを考えるというジャンプの課題を通して、アジア州について学んできた生徒たちが既習事項や新聞記事を活用しながら、様々な国の視点



に立ってアジア州をとらえ直し、現在アジア州が抱える問題について考え、判断することができる生徒の姿を目指す。

本時で使用する新聞記事は、「インドでの児童労働が増加」「インドネシアのバリ島で就農が増加」「中国の所得回復が遅れている」という3つの記事を使用する。生徒はグループごとにインド、インドネシア、中国の3つの国の中から1つの国を選び、その国について書かれた新聞記事を活用しながらジャンプの課題について考える。

(例)

- ・インド……………新型コロナウイルスの流行によるロックダウン（都市封鎖）の影響で、学校が閉鎖、失業者の増加、貧困家庭の増加に伴う児童労働の増加が問題になっている。※児童婚・虐待なども…。
- ・インドネシア…新型コロナウイルスの流行によって、主力の観光業が打撃を受け、失業する人々が増加。生活困窮者が増加している。
- ・中国……………新型コロナウイルスの流行によって失業率の増加、賃金の低下が問題になっている。

新聞記事から上記の内容を問題点として気が付いてほしい。

問題点を解決するためのアドバイスを考える場面では、既習事項と新聞記事を根拠として考えさせたい。

(例)

- ・インド……………工場を建設し、雇用を増やす。政府が補助金を出し海外の企業を誘致し、雇用を増やそうとしている。
- ・インドネシア…失業者を農村が率先して就農させている。(農具や生活拠点を農村が用意している)
- ・中国……………国内の消費を促進させる政策を行っている。海外の企業を誘致し雇用を増やす。

上記のような解決策を新聞記事や既習事項から考えてほしい。

〈授業展開〉

導入	<p>【共有の課題】</p> <p>アジア州の国々が様々な理由で経済発展していることを再確認する。</p>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ジャンプの課題】</p> <p>新型コロナウイルスが流行する中、アジア州の国々では様々な問題が起こっている。あなたが各国の政府の一員なら、その問題を解決するためにどんな解決策を提案するか考えよう。</p> </div> <p>選んだ新聞記事の内容から、その国で起こっている問題と、原因について読み取る。 ※問題の原因について読み取る場面で、コロナを直接的な原因として考えないように留意する。</p> <p>新聞記事から読み取った内容をグループで共有する。 共有したグループから解決策について考える。</p>
まとめ	<p>グループで考えた解決策を全体で発表する。</p>

【朝日新聞 2020年9月15日】

バリ島 Uターン就農続々



バリ島北部サンボウ村では、新型コロナウイルスの影響で帰って来た若者に畑を借り、就職支援をしている。中央がユドヒ・アスタラ村長、右がユドヒ・アスタラ村長、左がユドヒ・アスタラ村長。

観光業打撃 都会の失業者を支援

観光業打撃 都会の失業者を支援

2020/9/15 (火)

世界発

2020

過疎の村畑や農具を用意

毎日新聞 2020年(令和2年)11月3日(火)

インド 児童労働増懸念

【インドニューデリー11月2日】新型コロナウイルスのパンデミックの影響で、インドの児童労働が増加している。児童労働の増加は、インドの経済成長を妨げる可能性がある。児童労働の増加は、インドの社会問題の一つである。



新型コロナウイルスの感染が拡大する中、インドの児童労働が増加している。児童労働の増加は、インドの経済成長を妨げる可能性がある。児童労働の増加は、インドの社会問題の一つである。

意思反する少女の結婚も

【インドニューデリー11月2日】新型コロナウイルスのパンデミックの影響で、インドの児童労働が増加している。児童労働の増加は、インドの経済成長を妨げる可能性がある。児童労働の増加は、インドの社会問題の一つである。

【インドニューデリー11月2日】新型コロナウイルスのパンデミックの影響で、インドの児童労働が増加している。児童労働の増加は、インドの経済成長を妨げる可能性がある。児童労働の増加は、インドの社会問題の一つである。

【日本経済新聞 2020年11月20日】
「中国、賃金回復もたつき」

【毎日新聞 2020年11月3日】

(6) 生徒の反応

- ・今現在起きている現在進行形の問題に関する新聞記事は、生徒たちにとって興味深い内容であったため、夢中になって新聞記事を読み込む姿が見られた。
- ・新聞の内容が難しかった班の生徒たちは、新聞の内容を理解するのに時間がかかってしまった。
- ・新聞を読み取るのに精いっぱい既習事項と関連付けて問題を解決するところまで達成できない生徒が多くいた。
- ・A生徒の学びの姿より

社会科の単元である「世界の諸地域」オセアニア州・アフリカ州・アジア州について学習を進める中で、新聞記事の読み取りを行ってきた。新聞記事の内容から、今現在各州で起きている地球的課題を読み取り、読み取った課題を解決するための提案を考える

活動を行ってきた。A生徒は、オセアニア州の学習では、新聞記事から地球的課題を読み取る活動に苦戦していたが、同様の活動をアフリカ州・アジア州で行うことを通して、新聞記事を読み取る力が付き、本時のアジア州の学習においては、インドについての新聞記事から読み取れる地球的課題を複数書き出すことができていた。書き出した課題の解決策については、新聞記事を取り扱い始めた当初は1つの課題に対してのみであったが、学習を進めるにつれて、1つの課題に対して解決策が2つ・3つと増え、内容も具体的になり、かつ新聞記事の内容を参考にしながら書くようになっていった。グループ内で解決策について共有する場面でA生徒は、自身の考えた解決策をグループに伝えるとともに、自身の考えとは異なる解決策に触れることで考えを深めていった。「世界の諸地域」の学習の中で、異なる考えが受け入れられず、熱くなる場面があったが、次第に相手の考えを受け入れる姿勢が見られるようになっていった。新聞記事から調べ、書き出し、共有することで、自身の考えを深めるA生徒の姿であった。

(7) 成果と課題

- ・日本においても新型コロナウイルス流行によるさまざまな問題が起こっている状況の中、アジア州の国々の問題についての新聞記事は「現在進行形の課題との出会い」「疑問との出会い」という意味でも生徒が興味関心を持って学習する動機付けになっていた。また新聞記事から読み取れる問題は、その国でくすぶっていた問題が浮き彫りにされていた。多面的・多角的に考えさせるという点で適切な内容の教材であった。
- ・今回、「世界の諸地域 アジア州」の単元を学習するにあたり新聞記事を3種類用意したが、中国に関する新聞記事の内容が難しく生徒が読み取るための資料として適していなかった。今回の内容であれば、1つの記事だけを扱い、個の疑問を教師が全体につなぐという手立てがとれた可能性もある。さらに生徒の実態把握、教材研究を行っていききたい。
- ・新聞記事を読み取ることが目的になってしまい、新聞記事の内容と既習事項を関連させて考えさせるための手立てが足りず、生徒たちが解決策を考える場面で苦戦してしまった。記事を読むときのポイントや既習内容と関連付けるための助言や手立てが必要だった。
- ・単元の中で、新聞記事をどこで位置付けるかは、今後の課題である。単元のゴールに向けて、どのような新聞記事をどこで扱うことが有効なのか、さらに探究していききたい。
- ・新聞を読むことに苦手意識を持っている生徒が多く、新聞記事を選ぶ際、記事に興味を持って選ぶ生徒よりも、読む量が少ない記事を選ぶ生徒が多かった。新聞を読むポイントを授業で共有したり、新聞記事の内容を吟味したりしていききたい。また、学校全体で新聞記事を授業で活用する機会を増やし、新聞がどのような場面で有効であるか明らかにしていきたい。